



「カプセル内視鏡 はじめます。」



平成29年8月

新たに「カプセル内視鏡検査」を

導入しますのでご紹介します。

実物大

視野角 156°
最小検出対象 0.07mm
有効視程距離 30mm

小腸カプセル内視鏡検査の特徴

- 従来の小腸検査に比べ、苦痛が少ない検査です。
- 検査中は日常生活ができます。



- 検査開始2時間後からお水、4時間後から軽い食事をとる事ができます。



※すべての医療行為にはリスクが伴う場合があります。安全かつ効果的に小腸カプセル内視鏡検査が行えるように、検査に伴うリスクや禁忌(禁止事項)、適応症などについては、主治医から事前に説明があります。



小腸カプセル内視鏡検査は保険適用です。

●どんな検査？

カプセル内視鏡検査は、超小型カメラを内蔵したカプセルを口から飲み込むだけの内視鏡検査です。カプセルは消化管を通過しながら画像を撮影し、腰につけるベルト型記録装置にワイヤレスで画像データが転送される仕組みです。医師はこの画像をもとに診断を行います。カプセルの種類は小腸用と大腸用があり、検査時間は便として排出されるまで

●検査の流れ

の約8時間です。
小腸カプセルの場合、検査前日に消化の良い食事を午後10時頃までにとり、その後の飲食は控えていただきます。検査当日は、病院で装置を着け、カプセルを服用します。その後は一旦ご自宅や職場に帰ることが可能です。夕方に再び来院頂き、カプセルの到達位置を確認後、検査当日夕方から遅くとも翌日朝には検

査終了となります。カプセルは排便時に体外に排出されます。

●小腸疾患の診断のために

小腸は全長6〜7mと長く、全消化管の75%を占める、体内で最も長い臓器であり、従来の内視鏡やその他の検査方法では十分な観察が出来ませんでした。このため、小腸は長らく「暗黒大陸」とも呼ばれ、小腸疾患の診断は消化器疾患の中でも難しい領域でした。しかし、このカプセル内視鏡検査により、従来の他の小腸検査では見逃されてきた病変の検出が可能であることが確認されました。

カプセル内視鏡検査は、すでに保険適用されており、全国に普及しつつあります。地域における消化器疾患の診断治療のリーダーを目指して、今後も診療体制の充実に努めてまいります。